

当院小児科の一般診療および重症心身障害医療における感染症対策に関する施設間連携について

鈴木由美[†]第76回国立病院総合医学会
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol.78 No. 1 (19-22) 2024

要旨

国立病院機構下志津病院（当院）の小児科には、「感染症診療も含め地域の一般小児医療の一端を担う」、そして「感染症で重症化しやすい重症心身障害児（者）を支える」という2つの大きな機能がある。コロナ禍において、両者の機能を維持するため「感染症対策に関する施設間連携」に取り組んだので報告する。

- 1) 千葉県小児COVID-19感染症診療の地域連携：2019年の台風災害を機に整備された「千葉県小児災害対策ネットワーク（CPD-net）」では、参加施設（38施設）のCOVID-19患者受け入れ可能状況や、入退院状況をメーリングリストで共有している。当院では本人以外家族全員COVID-19陽性となった人工呼吸管理の重症心身障害児を1名受け入れた。また保健所依頼の「COVID-19陽性小児」の外来診療も行った。
- 2) 千葉県院内感染対策支援ネットワーク 印旛・北総地区感染防止対策連絡会：2016年に発足した地域の感染管理認定看護師の連携体制を活用し、2020年度から同ネットワーク内の印旛地区と北総地区の2地区合同で感染対策活動を始めた。オンライン会議では、保健所や県職員とも意見交換を行い、施設間ではビジネスチャットや会議機能を持つアプリケーションであるSlack®を活用したリアルタイムな相談、資料の共有等を行った。
- 3) 国立病院機構重症心身障害研究ネットワーク参加施設の実態調査：重症心身障害児（者）病棟の感染対策は課題が多いが、その特殊性から地域の病院に相談しづらい場合が多い。このため、同ネットワーク内「院内感染対策担当者部会」でメーリングリストを活用し、アンケート調査や、オンライン会議で情報交換等を行った。

コロナ禍において地域医療、感染症対策、および重症心身障害医療における施設間連携は、大変重要であった。既存の連携関係に、近年急速に普及したネットワークツールを積極的に導入することで、連携がさらに強化できると期待される。

キーワード 小児科・重症心身障害、感染症、施設間連携

国立病院機構下志津病院 感染症内科・小児科 [†]医師

著者連絡先：鈴木由美 国立病院機構下志津病院 感染症内科・小児科 〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡934-5

e-mail : yumiatwork@me.com

(2023年3月6日受付 2023年6月9日受理)

Interfacility Collaboration on Infectious Disease Practice and Control, in Pediatrics and Facilities Providing Medical Care for Patients with Severe Motor and Intellectual Disabilities

Yumi Suzuki

NHO Shimoshizu National Hospital

(Received Mar. 6, 2023, Accepted Jun. 9, 2023)

Key Words : pediatrics severe motor and intellectual disabilities, infectious disease, interfacility collaboration